資料２－１

令和６年度 兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会事業報告（案）

１　総会の開催

開催日：令和７年３月１４日（ホテルアナガ）

概　要：＜議決事項＞

・協議会規約の一部改正について

・鳴門海峡の渦潮と世界遺産登録の方向性について

＜報告事項＞

・兵庫県の取組（自然分野）の報告

報告者　兵庫県淡路県民局県民躍動室　松田渦潮・観光参事

・徳島県の取組（文化分野）の報告

報告者　徳島県文化資源活用課　溝杭課長

・国際シンポジウムについて

協議会総会

２　幹事会の開催

（１）第１回幹事会

開催日：令和６年７月２５日（鳴門市役所）

概　要：令和５年度事業の報告を行うとともに、令和５年度収支決算、令和６年度事業計画及び収支予算の決定を行った。

（２）第２回幹事会

開催日：令和７年２月２０日（兵庫県洲本総合庁舎）

概　要：令和６年度事業の進捗状況報告を行うとともに、令和７年度事業計画（案）及び収支予算（案）、協議会総会の実施内容等について検討を行った。

３　世界遺産登録に向けた学術調査

（１）世界遺産登録に向けた学術調査（文化分野）

〇第１回「鳴門の渦潮」調査合同研究会（令和６年５月２５日、２６日）

「淡路島の分間絵図」調査研究の進捗状況等について討論した。また、委員による「分間絵図」と「淡路名所図会」に関わる現地調査を実施した。

〇沼島現地交流会（令和６年８月６日）

調査合同研究会委員による沼島島民の方との交流会を実施した。交流会では沼島の文化遺産をめぐる調査研究の成果報告を実施し、島民の方からは鳴門の渦潮をめぐる漁業慣行、沼島の生業や生活習俗などの聞き取りを行った。

〇第２回「鳴門の渦潮」調査合同研究会（令和６年９月２８日、２９日）

「淡路島の分間絵図」調査研究についての最終報告会を実施した。また報告書作成に向けての総合討論を行った。（淡路島「分間絵図」の詳細調査研究）

・デジタル化された「淡路国分間絵図」の活用

・歴史的に淡路を特徴づける砂嘴の形成、海人、南海道、紀淡海峡、水軍、漁業、海運などについての論考を集めた。

令和７年２月末に「「鳴門の渦潮」と淡路島の文化的景観」として報告書を刊行。

○「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査委員会（令和７年２月３日）

令和６年度の文化的調査について進捗状況を報告するとともに、令和７年度以降の取組方針について協議を行った。また、世界遺産登録の方向性についての検討会議の状況や、令和７年度の国際シンポジウムの企画について意見交換した。

【調査内容】

「淡路国分間絵図」を基にした歴史地理学的手法による「鳴門の渦潮」と淡路島の「文化的景観」についての調査・研究を実施した。

（２）世界遺産登録に向けた学術調査（自然分野）

○第 12 回鳴門海峡の渦潮世界遺産登録学術調査委員会（令和６年９月２７日）

令和５年度の学術調査結果及び令和６年度の学術調査実施概要について報告した。また今後の世界遺産登録の方向性について検討会議の途中経過の報告を行った。

○第 13 回鳴門海峡の渦潮世界遺産登録学術調査委員会（令和７年２月１９日）

令和６年度の学術調査結果の中間報告をするとともに、令和７年度の学術調査委員会の取組方針について報告した。また今後の世界遺産登録の方向性について、検討会議の結論の報告を行った。

【調査内容】

①海峡海岸部の地形測量と岩石強度調査

鳴門海峡の渦潮の自然的価値の証明において重要と考えられる海峡地形の成立過程を明らかにすることを目的とし、岩石強度の差異と海岸地形の凹凸との対応関係を定量的に示すために南あわじ市福良の岩石海岸の地形計測・地質分布調査及び岩石強度調査を行った。

②大島田コアの堆積年代分析

現在見られる鳴門の渦潮の発生時期を明らかにするため、一昨年度鳴門市大島田地区で人力によるボーリングコアで採取した試料の分析を行い、鳴門海峡周辺域における約 7,300 年前以降の相対的海水準について考察した。

③景観に関する調査及び分析

鳴門海峡の渦潮の美的価値の証明や保存計画策定において重要と考えられる鳴門海峡の景観の本質的価値を証明するため、一般社団法人鳴門市うずしお観光協会が実施する「鳴門百景フォトコンテスト」の受賞写真を分析し、現在の鳴門海峡の美的価値の有り様について検証した。

④海外類似資産調査

ア　ノルウェーとの連携

ノード大学研究者と国際シンポジウムへの登壇調整の実施を行った。

サルトストラウメン海峡の渦潮の発生機構を解析するためのドローン撮影に加え、ノード大学から資料提供を得て、３海峡のマトリクス表（比較表）の作成を行った。

イ　スコットランドとの連携

協議会とＳＡＭＳ（スコットランド海洋科学協会）との間で研究協力に関するＭｏＵ（覚書）を令和６年６月に締結した。

ＳＡＭＳの研究者と国際シンポジウムへの登壇調整の実施を行った。

コリーヴレッカンの渦潮に関する質問票を送付し、ノード大学、ＳＡＭＳと作る海洋物理チーム内で情報共有を行った。コリーヴレッカンの渦潮の発生機

構を解析するためのドローン撮影に加え、ＳＡＭＳから資料提供を得て、３海峡のマトリクス表の作成を行った。

４　今後の世界遺産登録の方向性（登録に向けたｱﾌﾟﾛｰﾁ）の検討（徳島・兵庫県合同）

有識者等を委員とする「兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録検討会議」を令和５年９月２９日付で設置し、今後の世界遺産登録の方向性（ストーリー）の審議を行い、今後の世界遺産登録の方向性を決定した。

※第１回検討会議は令和５年度（令和６年１月２３日）に開催。

第２回検討会議

（１）開催日：令和６年７月５日
（２）場　所：兵庫県立ひょうご女性交流館
（３）内　容：世界遺産登録をめざすストーリー（骨格案）の審議
　　めざす方向性について

第３回検討会議

（１）開催日：令和６年１０月２１日
（２）場　所：兵庫県立ひょうご女性交流館
（３）内　容：世界遺産登録をめざすストーリー（素案）の審議
　　ストーリーの肉付けに必要な内容の確認について

第４回検討会議

（１）開催日：令和７年１月１５日
（２）場　所：兵庫県立ひょうご女性交流館
（３）内　容：世界遺産登録をめざすストーリー（案）の審議・決定
　　今後の世界遺産登録の方向性の決定